

## 代表的な日本の農耕地土壤2 低地土と有機質土

日本の代表的な農耕地土壤を2回に分けて紹介します。2回目は、平野(沖積平野)や旧湖沼に分布し、水田や畑として利用されている低地土(全農耕地のうち48%)と有機質土(4%)です。

(農業環境インベントリーセンター 高田 裕介)

### 低地土

低地土とは、河川が運んできた土砂が堆積してできた土壤です。代表的な低地土として、グライ低地土、灰色低地土、褐色低地土があり、土壤の色の違いなどによって分けられています。土壤の色の違いは土壤中の水分状況に大きく影響を受けます。グライ低地土(青灰色)は最も湿った低地土、褐色低地土は最も乾いた低地土で、灰色低地土はその中間に位置付けられます。河川が運んできた土砂には養分が多く含まれ、古くから、低地土は食料を生産するのに適した土壤として認識されてきました。



グライ低地土  
岡山県玉野市



灰色低地土  
香川県坂出市



褐色低地土  
茨城県つくばみらい市

### 有機質土

有機質土とは、ヨシやミズゴケなど水辺や湿原でみられる湿性植物の遺体が堆積してできた土壤です。有機質土は旧湖沼や湿地に分布し、堆積した植物の組織が分解されずに残っている泥炭土と、分解されて残っていない黒泥土とに分けられます。有機質土には、温室効果ガスである二酸化炭素のもととなる有機物が多量に含まれているため、適切な排水管理や有機物施用など環境に配慮した農地管理が重要となります。



黒泥土  
千葉県東金市



泥炭土  
北海道美唄市